在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/10 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集　旭川医科大学　～志ある医療人を真剣に育てたい～◆

1973 年の創設以来、「地域医療を担う新たな人材育成」という理想を掲げ、約 4900 名の有為な人材を、医学科・看護学科から送り出している大学です。「地域医療」を旗印にしていますが、国内外の医療機関や研究機関、行政機関など、幅広い分野へと活動の範囲を広げている大学でもあります。先端医療の分野でも活躍している大学です。

□　吉田学長のメッセージ　～志高き若者の挑戦を待つ～

私が高校生だった頃、徹底して教えられた事。それは「志の高さが将来を決め、配慮の深さが人を大きくする」でした。医学の道へ進み三十余年。気がつけばこの教えは、〝社会献魂〟として私に深く根付き、医療格差是正を目指す、先端医療、世界初の国際遠隔医療、立体ハイビジョン手術伝送へと昇華しています。まだ志半ばです。国際的視野で、地域の患者さんに限りなく優しく汗を流す、そんな受験生からの挑戦状を心待ちにしています。

（旭川医科大学ＨＰより）

□　医学科：特色ある入試

医学科・看護学科の２学科がありますが、まずは医学科についてです。北海道の地域医療を担う人材を真剣に育てるという目標を達成するため、入試にも特色を出しています。いずれも、北海道の地域医療を真剣に担いたいという強い思いのある人のための入試です。安易な気持ちで受けられる入試ではないこと、言うまでもありません。

平成２７年度入学者選抜状況

大学名　旭川医科大学

1．医学科

（1）一般入試

前期日程（募集人員 40人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	115	55	120	65	235	120	355	
受験者数	92	39	117	62	209	101	310	
当初合格者数	8	3	17	12	25	15	40	
入学辞退者数	—	—	1	—	1	—	1	
追加合格者数	—	—	1	—	1	—	1	
入学者数	8	3	17	12	25	15	40	

後期日程（募集人員 22人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	160	71	340	135	500	206	706	
第１段階選抜合格者数	90	26	231	94	321	120	441	募集人員の20倍で実施
受験者数	36	8	109	45	145	53	198	
当初合格者数	3	3	13	3	16	6	22	
入学辞退者数	—	—	—	—	—	—	—	
追加合格者数	—	—	—	—	—	—	—	
入学者数	3	3	13	3	16	6	22	

（2）ＡＯ入試・推薦入試等

ＡＯ入試北海道特別選抜（募集人員 40人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	82	68	—	—	82	68	150	
受験者数	82	68	—	—	82	68	150	
当初合格者数	19	21	—	—	19	21	40	
入学辞退者数	—	—	—	—	—	—	—	
追加合格者数	—	—	—	—	—	—	—	
入学者数	19	21	—	—	19	21	40	

推薦入試道北・道東特別選抜（募集人員 10人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	16	8	—	—	16	8	24	
受験者数	16	8	—	—	16	8	24	
当初合格者数	7	3	—	—	7	3	10	
入学辞退者数	—	—	—	—	—	—	—	
追加合格者数	—	—	—	—	—	—	—	
入学者数	7	3	—	—	7	3	10	

（１）推薦入試　道北・道東特別選抜

受験できる生徒は、文字通り道北・道東地域の生徒に限られます。当然湖陵高校も道東の高校ですから、対象の高校です。3 年間の評定平均値をはじめとして、さまざま条件をクリアして、推薦の対象となります。さらに、大学入試センター試験で一定以上の点数をとることが求められます。とれなかった生徒は、自動的に不合格。将来、医師が不足している地域での活躍に強い興味と意欲のある人は、挑戦を考えてもいいと思います。ただし、誤解しないでほしいのですが、推薦入試だからといって受かりやすいわけでは、ありません。まず、出願の要件が細かく決められています。自分が求められている人物像に合致していると思っても、学校からの推薦がもらえないような生徒は、出願すらできません。諸条件をクリアーし、推薦してもらえたとしても、先ほど述べたように、センター試験で一定以上の点数（900 点満点で 675 点以上）が必要なことは言うまでもありませんが、それ以外に、課題論文３００点、集団面接３００点、個人面接３００点の合計９００点が、課されます。センター試験の成績が基準点以下の者は、選抜の対象となりません。（センター試験の成績は、選抜の対象とするか、どうかの判定にのみ用います）

高校時代、いやそれまでの学習のすべてをはじめとして、生き方や、ものの考え方、行動力、意欲まで含めて、さまざまな角度から試される「総合試験」であると思います。詳しくは、要項で必ず確認してください。

★昨年度の医学科推薦入試の内容（本校卒業生の受験レポートより）

①　集団面接（グループ討議）の内容

もし、世界に自分が考えていることを実現することができる装置（右手を挙げたいと心の中で思ったら、右手を挙げてくれるロボット等）ができたとします。その装置が発明されたことの良い点と悪い点を、また、その装置が開発されたら、どのような世界になるか自由に論じなさい。　（面接官 3 人、受験生 6 人で実施）

②　課題論文の内容

プールの利用についての新聞記事を読み、「安全性と利便性・快適性は往々にして相反することがある。そのような例を１つあげ、どのように解決していけばよいか、あなたの考えを１０００字以内で述べなさい。

新聞記事の内容は参考程度にとどめ、「本文には・・・と述べられている。」等と、本文の引用や要約を長々と行うことのないように留意すること。

（時間は１２０分。草稿用紙も配布される。）

（２）ＡＯ入試　北海道特別選抜

推薦入試が、道東・道北地区の生徒しか受験できなかったのに対して、このＡＯ入試は、北海道の生徒ならば、出願できます。しかし、推薦入試同様、細かく、出願要件を満たしているか確認する必要があります。特に、出願要件の１つに「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）に沿っていることを自己アピールできる者」とあるのが特徴です。

なお、センター試験で一定以上の点数（1200 点満点中 900 点以上）がとれない受験生は、その時点で不合格になります。しかし、それ以外にも、集団面接３００点、個人面接２００点、課題論文２００点が課されます。

推薦入試と違うのは、①センター試験が 900 点満点ではなく、傾斜がかかって、1200 点満点だということ、②独自に課される集団面接等の合計７００点満点と、センター試験の点数 1200 点満点を合計して、1900 点満点で合否が決まることです。推薦入試のセンター試験の利用は、選抜の対象とするかどうかの判定のみで、合計点には加算されません。

この入試も安易に考えないことです。推薦入試同様、さまざま能力や意欲をはかる、「総合入試」であることに違いはありません。

★昨年度の医学科ＡＯ入試の内容（本校卒業生の受験レポートより）

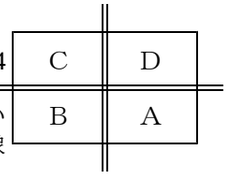
①　集団面接（グループ討議）の内容（１グループ６～７人）

「あなたは北海道の高校生です。これから日本の高校生と修学旅行で北海道に来ている外国の高校生とで、北海道を 4 日間旅行する計画を立てます。（英語での意志疎通は可能）ただし、北海道の魅力と日本の伝統文化を伝え、さらに国際交流を行うことを目的とする。」

旅行先	目的	活動内容

①説明を読む（2 分）
②自分の考えをまとめる（5 分）
③ディスカッションしてグループとしての案をまとめる（40 分）
④一人１分ずつ感想を述べる
←このような表を埋めていく

② 集団面接（実技）の内容（１グループ３～４人）



・テーブルが図のように仕切られている。受験生がＡ～Ｄのように4人が着席。6 枚の脳のＣＴ画像があり、そのうち 2 枚の番号はわかっている。他の 4 枚の番号はわからない。番号が記されていないものの番号は他の 3 人から聞いて、教え合いながら、番号順に画像を並べる。（Ａ～Ｄはそれぞれ、番号がわかっている２枚が異なる）
（最初２分各自で読み、取り組む→６分で協力して完成させる）

・まず、唾液アミラーゼの測定装置（測定キット）の使用手順の書かれた用紙を読む。手順は１～７まである。ただし、手順の中で、自分に配布された用紙には、いくつかの手順が欠落している。欠落している手順については、他の 3 人と教え合いながら、手順通り実行していく。（Ａ～Ｄに配布される説明書・手順書は１人１人異なる）
（最初２分各自で読み、取り組む→６分で協力して実行）

② 課題論文の内容

課題文を読んで次の問に答えなさい。
医学部に進学することは、その時点ですでに将来の職業を選択してることにほかなりません。医師国家試験に合格するのみならず、患者さんの命を預かる一人前の医師になるには、今後どのような学び方をしていく必要があるとあなたは、考えますか。1200字以内で述べてください。
（上記の文章を要約して述べたり、一般論や、「～すべき」「～であるべき」といった「べき」論を展開しないこと。）

□ 看護学科：特色ある入試

一般入試の小論文では、他大学とは大きく異なる問題が出題されます。ただし、奇抜な問題で受験生をいじめようとしているわけではないことを理解してほしいと思います。

【平成 22 年度　看護学科前期の小論文の例】

別添の封筒をあけ、中の千円紙幣を取り出し、次の問一・二・三に答えなさい。

問一　この紙幣に印刷されている人物についてあなたが知っていることを、250 字以内で書きなさい。

問二　この紙幣を、たとえば形・大きさ・デザイン、さらには紙質など、多角的な視点からよく観察し、あなたが高く評価できると思う点と、改良したいと思う点を、それぞれ理由もつけて 600 字以内で書きなさい。

問三　（課題文として、「医療系の小論文で、奇をてらった出題があり、それはよくない。生徒がその分野を目指す上で基礎となる知識や意識を問い、受験生の努力を評価すべき」　という内容の新聞の投書欄に掲載された文章を読ませた上で）

小論文の出題者もこのような意見を持つ人が多くいると推測している。にもかかわらず、この「小論文」出題者は、なぜ、今回敢えて問二を出題したのでしょうか。問二で答えた内容を十分に踏まえながら、あなたの推測を 800 字以内で、抽象的にではなく具体的に書きなさい。

看護学科を受験する生徒は毎年、過去問にも取り組んでいます。最初のうちは少し戸惑いが見られますが、そのうち、「驚き」の表情ではなく、「そうきたか！おもしろい問題だな」という表情にかわっていく生徒がいます。そういう生徒に接する度に「こういうことを楽しいと思える生徒は、旭川医大のアドミッション・ポリシーの一部に合致するといえるなあ」と感じながら、生徒と接しています。

こんな問題を出す意図は何でしょうか。端的に言えば、おそらく、入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に合致している人物を選抜するためです。そこには具体的にどういう学生がほしいか明記されています。

その中には、「自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力」がある学生がほしいと書かれており、さらに具体的に「新たな事象に対して、自ら持つ知識・技術を独創的な視点から論理的に応用し、自らにとって未知の問題点を抽出できる学生」とも書かれています。知識を持つことは大切なことですが、それをつなぎあわせたり、応用したりする力も求められています。また、よく観察したり、考えて課題を抽出することも大事な力として書かれています。これらの力を重視することは、現行の大学入試センター試験が廃止され、新たな大学入試に向けて動きだしている方向と同じであるというのが、大学側の見解で、私もなるほどなと思いました。

平成２７年度入学者選抜状況

看 護 学 科

（1）推薦入試

募集人員（10人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	4	32	—	1	4	33	37	志願倍率 3.7倍
受験者数	4	32	—	1	4	33	37	受験倍率 3.7倍
当初合格者数	—	10	—	—	—	10	10	
入学辞退者数	—	—	—	—	—	—	—	
追加合格者数	—	—	—	—	—	—	—	
入学者数	—	10	—	—	—	10	10	

（2）一般入試　前期日程

募集人員（40人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	13	129	—	6	13	135	148	志願倍率 3.7倍
受験者数	12	123	—	3	12	126	138	受験倍率 3.5倍
当初合格者数	2	38	—	—	2	38	40	
入学辞退者数	—	2	—	—	—	2	2	
追加合格者数	—	2	—	—	—	2	2	
入学者数	2	38	—	—	2	38	40	

（3）一般入試　後期日程

募集人員（10人）	道内 男	道内 女	道外 男	道外 女	全体 男	全体 女	計	備考
志願者数	10	127	—	5	10	132	142	志願倍率 14.2倍
受験者数	5	51	—	1	5	52	57	受験倍率 5.7倍
当初合格者数	—	10	—	—	—	10	10	
入学辞退者数	—	—	—	—	—	—	—	
追加合格者数	—	—	—	—	—	—	—	
入学者数	—	10	—	—	—	10	10	

各倍率は小数点以下第二位を四捨五入

医学科にせよ、看護学科にせよ、ほしい学生像に合致する人物を選抜できるよう工夫されているのです。選抜方法にこれだけの工夫と労力をかけるのはなぜなのか。それは地域医療にかける志・思いがあるからです。それは、今年の入学者に向けて吉田学長が入学式で述べた式辞の内容によく表れています。最後に旭川医大のＨＰで公開されている、式辞の内容を要約したものを紹介します。熱心に汗をかいて仕事をしている人の言葉を読み、医療系以外に進学を希望している人は、「仕事をするとは何だろう」ということを考える機会にしてほしいです。また、医学科・看護学科を志望している生徒は、地域の医療について、自分の進路について考える参考にしてほしいと思います。

「医師の数は増え続けているが、医療格差は依然として存在している。北海道は特に多くの病院で医師が不足している。北海道の調査によると、不足している医師数は 1,144 名で、3 年前の不足数とほぼ同数であった。北海道では毎年 300 名を超える医師が誕生しているにもかかわらず、医師不足が続いているのが現状である。旭川医大設立から半世紀近く経った今もなお、「必要とされる医療を、誰もが、どこにいても受けられる北海道になってほしい」という本学創立の夢は、残念ながらまだ道半ばである。もっと、ここ北海道で汗を流す医療人を育成したい。そう考えた私達は入試制度を抜本的に改革し、特に北海道在住の若者達に門戸を大きく広げてきた。

さて、医学の学びは、覚える知識は膨大だが、それ以上に、新たな問題を見つけ解決していく能力が要求される。本学では「自ら問題を見つけ、解決する意欲と行動力」を求めている。大学での学びでは、教科書を単に覚えるのではなく、自ら分かっていない部分を明らかにし、それを自分の力で理解し応用できるようにしていくことが必要である。

もう一つ大切なことがある。それは、人としての基本的な「コミュニケーション能力」を、第一学年の時から身に付けて頂きたいということだ。医師として看護職者として、仮に最高の技術を身に付けたとしても、他者とのコミュニケーション能力に欠けるならば、その人は最善の医療人とは言えない。友人や先輩そして教員に対する挨拶一つを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が見えてくるものだ。

この最も基本的な挨拶の意味するもの、それは何か？それは「他人への思いやり」すなわち「他者への配慮」である。壁にぶつかった友人、自分のために時間を割いてくれた先輩、そして自分達のお世話をしてくれている教職員への挨拶。その中に込められた思いは、「他の人への配慮」に他ならない。　これらのことを大切にして、切磋琢磨してがんばってほしい。